

遺骨が眠る土砂を辺野古新基地に使わせるな①

東京都清瀬市 市議会議員 ぶせ 由女

全員賛成で陳情書を採択

昨年の9月議会で、「沖縄戦没者の遺骨混入土砂を基地などの埋め立てに使用しないことを求める陳情」が市民の方から提出された。清瀬市議会では、常任委員会中に休憩時間を取り、その時間に陳情者が趣旨説明をする機会を設けている。そこで、「戦没者の血がしみこんだ土砂を埋め立てに使うことは、戦没者を2度殺す事と同じです。そのような行為は人道に許されない事であり、遺族の方々の悲嘆は計り知れないものです」と、陳情者の切なる感情と正当な認識が披瀝された。その後、委員会が再開し、審議した結果、全員が賛成し、採択となった。本会議でも全会派が賛成し、可決された。

この出来事については、同年9月21日付の東京新聞「本音のコラム」で、清瀬市在住のルポライター、鎌田慧さんが「わたしの住む町は、歴代保守市長のもと保守系議員が多数を占めているのだが」という前置きとともに

に紹介している。日頃、様々な案件で対立することが多い自民党、公明党、保守系無所属議員などが賛成したことをうれしく思い、清瀬市議会も捨てたものではないなと気持ちを新たにした。ところが、である。この9月議会では、沖縄の基地をめぐる陳情がもうひとつ出されていたのだが、そちらは否決されてしまったのだ。

もうひとつの陳情書は不採択、

そのおかしな理由

「辺野古新基地建設の中止と、普天間基地の沖縄県外・国外移転について国民的議論を行い、憲法に基づき公正かつ民主的に解決するべきとする意見書の採択を求める陳情」というのがその陳情で、実は、同名の陳情が3年前に僅差で可決されていた。その時はたいへん喜ばしく思ったものだが、その陳情に「ことに沖縄戦戦没者の遺骨の残る沖縄島南部から採取した土砂を埋め立てに

◆特集 「沖縄『復帰』50年」を問う



辺野古新基地建設埋め立て現場

使用することは、戦没者の遺骨の尊厳を損なうものであり、認められるべきではないこと」という新たな内容が加えられたのが、もうひとつの陳情である。これが不採択となってしまった。

これに憤りと落胆を禁じ得ないのは、「同じ趣旨だから反対する」という、ある若い議員の理不尽で不誠実な主張が通ってしまっただからだ。情勢の悪化

を踏まえ、新しい文言を加え改めてその意義を訴えた陳情が、名前や趣旨が同じだけで否定されてしまうことに首をかじげたくなる。たとえ、まったく同じものであったとしても、主張を曲げる理由にはならないはずだ。先の全会一致となった陳情と、趣旨が重なるにもかかわらず反対したことにも、納得がいかない。清瀬市議会も捨

てたものではないな、と浮かれている場合ではなかった。遺骨混入土砂を使用することは人道に許されない、という一点では賛成だが、辺野古新基地建設の中止には賛成しかねる、というのが保守派の言い分のようなのだ。しかし、新基地建設の過程で安易に無頓着に戦没者の尊厳を傷つける、という無神経さは、推進派の一貫した思想と行為の紛れもない表れである。人間の命に対する一連の冒瀆の一環である。遺骨の問題と新基地の問題は切り離すことができない。

辺野古新基地建設は違憲である事実は変わらない

いずれにせよ、立場や信念はどうあれ、事実に基づいた確固たる論理的な思考方法を持たない若い議会人が力を持ちつつあることは、懸念すべき事柄である。現在の日本で無批判に広がりつつある若年層の右傾化の波とも、それは無関係ではないだろう。だから、事実を伝えるだけでは心許ない気持ちにもなる。それでも、閣議決定のみで決定され、強行されている辺野古米軍基地建設は憲法違反である、という確かな事実は、事実として、今こそ、伝えていかなければならないと考えている。

(ふせ ゆめ)